

式辞（午後の部）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。日本体育大学の教職員を代表して、皆さんを歓迎するとともに、心よりお祝い申し上げます。また、ご家族、関係者の皆様、本日は誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご家族、関係者の皆様には映像での配信となりましたが、ご理解、ご協力賜り、誠にありがとうございます。

さて、皆さんが晴れて入学した日本体育大学は、日高藤吉郎先生によって今から 130 年前の 1891 年に体育会として設立されました。「からだ」への教育をおこなうことが目的でした。いうまでもなく、「からだ」は私たちにとって、最も根源的なもので、誰もがこの「からだ」で生き、活動し、からだによって他者や社会と交流します。また、さまざまな感覚器官をそなえた「からだ」は外部世界を知覚し、認識するための媒体でもあります。ところが、この「からだ」は誰もが持っているにもかかわらず、意識と感覚を通じて把握する仕方は、個人によって、あるいは社会によって、また、時代によって異なっているのです。

本学はこうした「からだ」を対象に、創立以来、一世紀以上にわたって、教育を行ってきました。特に、スポーツする「からだ」の構築や、伝統的な「からだ」の継承とその国際的な展開、商品としての「からだ」の発見、健やかな成長を支える「からだ」の支援、そして医療の対象となる「からだ」の知見を深め、それを教育の中に展開しています。皆さんがこれから学ぶ大学の 4 年間は、その大半が「からだ」にまつわる学問との出会いになります。そしてこの出会いによって、「からだ」に関わる世界の広さに驚きを感じるようになるでしょう。

この驚きは皆さんの新しい可能性を開くきっかけを作ってくれるものです。これまで知らなかった世界を意識するということですから、新たな発見が至る所にあるはずです。

最高学府としての大学は、学問の場であり、知的探求の場です。皆さんはいま、その世界の扉を開いたわけですから、まずは、学問の世界に浸ってください。もしかすると、クラブ活動などで決まりきった練習だと思っていたことが、実は学問的な裏付けがあって行われていることに気が付くかもしれませんし、正しいと思ってきた教えに根拠が存在していないということを知るかもしれません。学問の世界も多種多様です。自分に合った、興味の持てる授業を見つけることが、学問への最初の入り口になると思います。大学の 4 年間という時間は、長いようで始まってしまえば、あっという間に終わってしまいます。ぜひ大学生の時代に没頭できる何かを見つけてください。それは大学生に許された特権の一つでもあります。また、その経験は必ずその後の人生の大きな糧になるはずです。

大学院に進学した皆さんは、すでに没頭できる何かを見つけていたり、気が付いていたりしていることだろうと思います。私も本学大学院の出身で、現在はスポーツ人類学を専門としています。スポーツ人類学とは、世界中に存在している様々なスポーツを文化として捉え、これを経験的な調査方法を動員して、考察していく学問分野です。私は20年以上前からミャンマーの伝統スポーツを対象にして、現地で調査を続けてきましたが、このような社会情勢なので、すでに1年以上ミャンマーには足を運んでいません。そしてこの間にミャンマーでは軍事クーデターが起こり、アメリカのバイデン大統領がコメントしたように、常軌を逸した人権侵害が起こっています。私もとても心配して、何かできることはないか、常に考えるようになっていきます。

私がここまでのめり込むようになったスポーツの人類学研究に目覚めたのは、皆さんよりも遅く、大学院で2年目を迎えた年でした。イギリスの社会人類学者であるレイモンド・ファースが1930年に書いた論文を読んで衝撃を受けたことがきっかけです。彼は1928年から29年にかけて、大西洋南西部に浮かぶティコピア島でおこなわれているダーツの試合を調査しました。ダーツといっても槍投げですが、ここでは試合で実際に使われる投擲技術、得点方法、勝敗を得るために行われる儀式、勝利や敗北の際に歌われる歌やそこに参加する人々の感情の背景などに注目して分析を行いました。その結果、試合は単なる運動やリラクスのための遊びを超えて、経済的、宗教的な生活の中で、かなり重要な役割を果たしていること、このコミュニティの社会的組織や構成員としての資格にまで影響を及ぼしていることを明らかにしたのです。ダーツの試合が社会の在り方や人間の生き方にまで影響を与えていることに驚くとともに、この研究が現地に住み込んで調査したという事実に、なんともいえない憧れを持ち、自分もこうした研究をしてみたい、と思ったことを今でも鮮明に覚えています。

自分自身が没頭できる何かは、本当にひよんな出会いから見つかることもあるようです。ただし、出会いのタイミングとその相手は自分の蓄積してきた知識と経験によって変わってきます。皆さん、ぜひ、よい出会いを見つけてください。

最後に、皆さんに大いに期待していることがあります。それは日本体育大学の歴史と伝統を継承し、さらなる発展につながる担い手になってほしいということです。いままさに社会が変化をはじめています。コロナ禍や自然災害による災禍は社会変動に拍車をかけています。このような時代の中であって、皆さん一人ひとりには、これから先の時代をリードするとともに、新しい社会を創造する人財になってもらいたいと願っています。

日本体育大学での学生生活が皆さんにとって、実り多く、充実したものになるように、お祈りし、私の式辞といたします。

令和3年4月3日

日本体育大学 学長 石井隆憲